

# 令和7年度 第1回 横浜市芸能センター指定管理者選定評価委員会 会議録

1 日 時 令和7年7月18日（金）午後3時00分から午後4時56分まで

2 場 所 横浜にぎわい座小ホール（のげシャーレ）

3 出席者 加世田 恵美子 委員、高島 知佐子 委員、田中 操 委員、廣瀬 哲也 委員

4 欠席者 無し

5 傍聴者 無し

## 6 議事内容

議題	1 定足数の確認について 2 委員会の公開・非公開について 3 令和6年度業務評価
議事・ 委員意見等	1 定足数の確認 委員数4名のうち4名の出席により定数を充足しており、会議の成立を確認した。  2 本委員会の公開・非公開について 横浜市の保有する情報の公開に関する条例第31条及び横浜市芸能センター指定管理者選定評価委員会運営要綱第9条に基づき、公開とした。  3 審議事項「令和6年度業務評価」 (1) 評価関係資料について ア 評価資料及び評価方法の確認 事務局から、評価に使用する資料、評価方法について説明があった。 イ 指定管理者業務実績及び自己評価について 指定管理者から、令和6年度の業務報告及び自己評価についての説明があった。 ウ 行政評価について 行政評価シートに基づき、事務局から行政評価について、要点の説明があった。  (2) 指定管理者へのヒアリング、評価・改善点の説明 委員から指定管理者に対する質疑及び評価内容（評価する点、更なる取組を期待する点）の説明を行った。  《主な意見及び質疑応答》 (以下「・」は委員、「⇒」は指定管理者)

	<p>ア 「使命1：大衆芸能と市民をつなげる」及び「使命2：大衆芸能をはじめとした文化芸術活動と体験の場となる」について</p> <p>【質疑】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アウトリーチの事業数を増やすことは難しいのか。</li> </ul> <p>⇒現状の職員数では人手が足りないという問題もあるが、アウトリーチでは演者の選定や設備面での課題が大きい。大衆芸能の専門館としては、子どもたちが初めて大衆芸能に触れる機会だからこそ、学校の体育館の音響や照明でなく、施設に来場してもらい充実した体験をしてもらいたいと考えている。そのためにも公演だけでなく、子どもでも分かりやすい展示をする等、入口から親しめるような方法を模索している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大演芸まつりの昨年度と今年度の入場率の変動はどうか。</li> </ul> <p>⇒昨年度が48%、今年度が57%で、5日間全て平日昼間の公演だったことを考慮すると客席はかなり埋まっている状況だった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェブサイトに新しく追加した「芸能散歩」はどんなテーマか。</li> </ul> <p>⇒「宿屋の仇討」で4本、「宿屋の富」で2本、「船徳」で3本の計9本を令和6年5月に一挙公開した。当該演目の場面の転換に合わせているため、1つの演目で動画が複数に分かれている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・野毛茶屋の撤退に伴って、今後の売店等の機能はどうするのか。</li> </ul> <p>⇒代替として自動販売機の設置を進めている。令和7年5月に飲料とお菓子の自動販売機を3階へ設置、令和7年6月にアイスの自動販売機を2階へ設置した。なお、野毛茶屋が撤退した主な理由は、コロナ禍を経て公演中の飲酒を禁止したことから、採算が合わなくなつたためである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登竜門シリーズの公演において、観客動員数が思わしくない演者の公演数を減らしたとあったが、演者のフォローはどうしたのか。</li> </ul> <p>⇒独演会は少し減らす代わりに親和性のあるジャンルの演者とコラボ公演を行うなど工夫してフォローしている。</p> <p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指標の事業数は目標をほぼ上回っているとともに、多彩な企画公演やアウトリーチの内容についても高く評価する。</li> <li>・展示コーナーは、芸能を多角的に捉えて知識を深めることができる点が素晴らしい、毎月のように内容を工夫して継続している特筆すべき取組である。</li> <li>・リピーターが着実に増加しているとともに定着率も高い点を評価する。</li> <li>・寄席文字体験講座やマジック体験講座では、幅広い年代層が参加して楽しむ機会を創出されている点を評価する。</li> <li>・「野毛まちなかキャンパス」では、落語だけでなく実際に大山の宿坊のご子息を招いて大山詣りの話を聞くといった工夫がみられた。</li> </ul> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規来場者、特に若年層の獲得が課題であり、大人をメインターゲットとする大衆芸能の性質上、抜本的な見直しも必要と考える。若年層に対してはアウトリーチを集中的に実施し、幼少期に大衆芸能に触れる機会を与えることで、大人になったときの顧客を増やすという長期的なスパンでの取組を期待</li> </ul>
--	---

	<p>したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鑑賞型事業の入場者数や総来場者数は、右肩上がりではあるものの目標値が高いので乖離がある。広報の方法等、更なる工夫を期待したい。</li> </ul> <p>イ 「使命3：大衆芸能を担う人材を育む」及び「使命4：地域のにぎわいを創出する」について</p> <p><b>【質疑】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若年層の顧客を獲得していくために、今後取り組もうとしていることはあるか。</li> </ul> <p>⇒先ほどと同内容になるが、子どもでも分かりやすい展示へ変更し、公演を鑑賞しなくとも楽しんでもらえるような仕組みを模索していきたい。また、学校に対しての広報の仕方として、娯楽施設というよりも文化を学ぶことのできる教育の場であると認知してもらえるような努力をしていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若手育成事業の実施回数のカウント方法はどのようにしているか。</li> </ul> <p>⇒前座、もしくは開口一番に二つ目が出演した公演数と登竜門シリーズの公演回数を合算している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校単位の団体鑑賞5校はどのような内容か。</li> </ul> <p>⇒学校単位で鑑賞した5校のうち4校が貸切で、学校側の日程、予算、演者等の希望を伺ってからフルオーダーで実施した。にぎわい寄席とは別の貸切公演の形で、公立校だけでなく私立校の実績もある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもをターゲットとした事業16回の内訳を教えてほしい。</li> </ul> <p>⇒こども寄席2回、マジック体験講座1回、寄席文字体験講座2回、鉄道ものまねワークショップ1回、学校プログラム2回、寄席体験プログラム4回、学校貸切公演4回の合計16回です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の登竜門シリーズは何回実施予定か。</li> </ul> <p>⇒1人の出演者に対して原則年2回で例年20回程度になっており、今年度も大体そのくらいの回数を予定している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・桜木町・みなとみらい地区を巡るデジタルスタンプラリーのスポット設置に伴う来訪者数を把握していたら教えてほしい。</li> </ul> <p>⇒4月と10月の2回実施しているが、10月のデータは把握しており264人の来訪があった。なお、スタンプラリー参加者数の合計は、スマートフォンの登録台数ということになっており、3,864人だった。参加したどのスポットも大体300前後の来訪者数となっており、横浜にぎわい座がとりわけ少ないというわけではない。スタンプラリー参加者に施設を認知してもらうとともに展示を鑑賞してもらうことにも繋がるため、今後も機会があれば是非とも参加したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣の商店街等と連携して、公演の半券提示にて飲食店で割引を受けられるような取組は実施しているか。</li> </ul> <p>⇒以前、実施していたことはあったが、現在は実施していない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若手芸人の育成の課題に記載されていた「公演だけでなく時代に合う形での教育普及の場」の提供に努めるとは、具体的にはどのようなイメージを持っているのか。</li> </ul> <p>⇒若手芸人の育成という意味ではワークショップのイメージだが、子どもたち</p>
--	---

	<p>の育成という意味では展示も含める。</p> <p><b>【評価する点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若手演者を段階的にステージへ上げていく工夫がされており、若手育成の素晴らしい取組である。</li> <li>・学校単位での鑑賞機会の創出により、鑑賞者的人材育成にも取り組んでいる点を評価する。</li> <li>・地域の中へ積極的に出ていき、地域団体と調整、連携しながら取り組んでいる点を評価する。</li> <li>・職業体験の実施で中高生の生徒を受け入れており、子どもにとって良い体験になっていることに加えて、子どもたちに横浜にぎわい座を認識してもらうという点でも良い試みである。</li> <li>・鉄道ものまねワークショップの企画は発想自体が面白く、事業担当が工夫している様子がうかがえる。</li> <li>・野毛地区の地域と共に実施しているカラオケ大会は、地域のにぎわいづくりだけでなく、施設の認知度アップにも繋がる。</li> </ul> <p><b>【更なる取組を期待する点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アウトリーチ事業に苦慮している話があったが、学校単位で来場してもらい鑑賞やバックステージツアーを実施するなど、省力化しながらも規模を拡大していく手法も検討いただきたい。また、公立の小中高等学校だけでなく、私立や外国人学校にも関心の高い学校があるかもしれないため、個別的小規模な体験授業の実施も検討いただきたい。</li> <li>・自主事業公演への団体誘致数の指標では、実績との乖離が目立ってしまうので引き続き注力して取り組んでいただきたい。</li> </ul> <p>ウ 「使命5：大衆芸能を切り口としてあらゆる人を受け入れる」、「使命6：持続可能性を高める施設運営を行う」及び「その他」について</p> <p><b>【質疑】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収支報告書において広告宣伝費の予算額が少なく、決算額と大きく乖離しているのは何故か。 ⇒広告宣伝費の項目は施設管理に関わるものを計上しているため、例年はほとんど計上していない。令和6年度の決算額が大きくなっているのは、ホームページをスマートフォン対応にする改修を急務で行ったためである。なお、事業に関わるチラシやポスター等の広告宣伝費は自主事業費に計上されている。</li> <li>・使命4の指標にあった団体誘致は、增收を目指すための指標なのか、顧客の裾野を広げていくための指標なのか意図を教えてほしい。 ⇒チケット収入ももちろん増やしたいが、両方の意図がある。団体客の属性は町内会や企業OB会等が多く、仲間と来館することで初めて訪れた場合でも安心することができる。さらに横浜にぎわい座の公演だけでなく、仲間と鑑賞の前後に野毛地区での飲食を楽しんで、地域の魅力を感じてもらうということが理想である。団体誘致という点では、提案内容のパッケージを作成し、</li> </ul>
--	---

	<p>旅行会社へ営業してみることも1つの案と考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>飲食面以外での野毛茶屋跡地の活用方法は決まっているのか。オープンスペースとして様々な人が利用できれば、展示を見に来て、ついでに公演を知つて鑑賞していくという流れが生まれることも期待できるのではないか。</li> </ul> <p>⇒野毛茶屋は3階ロビーの一画にあり、壁で囲われているため活用が難しい。</p> <p>また、公演のないときは2階までしか上がることができないようになっているため、跡地を活用するには相当の工夫が必要である。公演の鑑賞目的でなくとも気軽に立ち寄ることができるスペースという意味では、2階の展示スペースのリニューアルを検討している。公演のない日にも集つて学びを得て、少し休憩してくつろげるような機能をもたせようとデザイナーと調整している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>横浜市国際交流協会にヒアリングを行い、検討の手がかりを得たとのことだが、外国人がどのように感じているのか具体的に教えてほしい。</li> </ul> <p>⇒能や狂言はおぼろげながらイメージできるが、大衆芸能、落語や講談と言わ�れても何をやっているのかイメージが掴めないため、お誘いやチラシを置いても理解されないのではないかという話があった。そのため、やさしい日本語で施設概要や楽しみ方の広報物作成を検討している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>使命5定量指標の「社会包摂の実現を目指す事業数」「横浜にぎわい寄席へのシニア入場者数」「横浜にぎわい寄席の障がい者料金利用数」について、目標と実績に乖離があるが、今後どのような取組を考えているのか。</li> </ul> <p>⇒障害者向けの取組としては、最寄駅から当館へのアクセス方法について、ホームページでの案内を充実させたい。また、今年度の施設職員向けの研修において、視覚障害者の方を招いて施設の改善点を講評していただくことを予定している。他にも無料展示や英語落語の実施、やさしい日本語をツールとした印刷物、あるいはウェブでの展開を考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>芸能ホール調光操作卓の不具合の話があったが、更新の予定は決まっているのか。</li> </ul> <p>(横浜市) 厳しい財政状況もあり、すぐに取り掛かれるものではないが、事業や貸館に支障が出ることは避けなければいけない。次年度の更新に向けて予算要求していき、早期に問題解消できるように努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人件費のあらかじめ想定されている差額分を事業費に付け替えて予算を組むことはできないのか。</li> </ul> <p>⇒公益財団法人横浜市芸術文化振興財団で管理する全施設統一のルールに則つて予算計上しているため、横浜にぎわい座単独で変更することは難しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和6年度広告宣伝費の予算額と決算額に大きく差があることは、ホームページ改修の影響であると説明されていたが、令和7年度もホームページ改修を行うということは、同様に差額が出るということか。</li> </ul> <p>⇒令和7年度分については、予算を組む段階で計上しているため、大きく差が出ることはない予定。</p> <p><b>【評価する点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>障害がある人や外国人の支援を行う団体へのヒアリング等を実施しており、他の専門的な組織と繋がって事業の展開を検討している点や、実際に障害者</li> </ul>
--	---

	<p>の利用者数が年々増加傾向にある点は評価できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設の老朽化による問題にも予算をやり繰りながら適切に対処している点を評価する。</li> <li>施設職員の丁寧な対応が来館者の満足度に繋がっている点を評価したい。</li> <li>横浜にぎわい座へ来訪することが難しい障害者の中を考えると、障害者施設に対して定期的にアウトリーチで寄席を実施しているのは、素晴らしい取組であると評価する。</li> <li>施設スタッフへの教育をしっかりと実施しており、スキルアップや気づきの機会を提供している。</li> <li>自主事業収入やグッズ販売等その他収入も目標を上回っている点は評価できる。</li> </ul> <p><b>【更なる取組を期待する点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>単に障害者や外国人の利用者数の増加だけでなく、英語落語のような新しい取組を期待したい。例えば、目の不自由な人が楽しめる美術館の取組等も広がっているので、障害者でも楽しめる大衆芸能の先進的な取組を行って、全国的な模範となる施設を目指していくことを期待したい。</li> <li>「芸能散歩」の外国語版ややさしい日本語版の作成も検討してほしい。</li> <li>施設の老朽化が進んでいるため、公演に影響が出ないように先々のことを考えた対応が必要である。横浜市と協力しながら早めに措置してほしい。</li> <li>機械式駐車場の故障トラブルは完全に収まっているので、管理組合とも協力して進め、早期解決を期待したい。</li> <li>事業スタッフの人員不足が生じないよう業務委託を導入するなど、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団全体での検討を期待したい。</li> </ul> <p><b>エ 「総括」について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>組織運営全体が非常に丁寧に行われており、職員も研修受講等を通じて日々改善を少しずつ進めている。一方で、施設の外で行われている多様な取組に触れる機会が増えると、新たな発想のきっかけにも繋がるので、他の劇場の現場でしか得られない新しい視点も取り入れることを期待したい。</li> <li>コロナ禍を経て劇場内でアルコールや食事が禁止された話があったが、ヨーロッパ的な劇場文化と日本の劇場文化の差も考慮してほしい。飲食をしながら、ある意味だらだらとした日本ならではの芸能鑑賞スタイルが文化としてある。正解はないと思うが、人々の意見を聞き入れる一方で、文化継承として何を残していくべきかということを考えてほしい。</li> <li>目標値に関しては、何かを達成するための指標でしかなく、数を増やせばよいというものではない。現時点で最終目標値の達成が難しいと思われる指標がいくつかあるが、本来の目的を達成できているのであれば、目標値を見直すということもネガティブではなく、むしろ有意義だと考えるため、そのような視点も入れて運営していくことを期待したい。</li> <li>演者の若手人材育成事業を行っているが、施設職員についても同様に、もう少しお金をかけてでも勉強させて人材を育成していくという両立も期待したい。</li> </ul>
--	--

	<p>・横浜にぎわい寄席が毎月 1 日から 7 日までと限定されている中で、学生、子どもも入場者数800人の目標は難しいと考えていたが、学校の貸切公演という形で鑑賞してもらう取組も行っているので、この取組実績も含めて目標を達成したか判断してもよいと感じている。</p> <p>・外国人や障害者向けの取組について、昨年に動き始めて今後どのような工夫していくのかという流れになってくる。障害者施設等の入所者は個人的に来訪することがなかなか難しいと思うため、施設ごとに P R して来訪してもらえるような流れを作っていくとよい。あらゆる人を受け入れるという姿勢を出していける施設であると感じているし、これからの中でも期待したい。</p> <p>4 まとめ</p> <p>本日の委員会で確認した内容を踏まえ、各委員は評価シートを改めて見直し、事務局で調整の上、委員会の最終評価内容としてまとめることとする。</p>
審議結果	<p>審議事項「令和 6 年度業務評価」について、本日の委員会で確認した内容を踏まえ、各委員は評価シートを改めて清書し、事務局で調整の上、委員会の最終評価内容としてまとめることとする。</p> <p>また、議事録については委員長確認後に確定のうえ、公表する。</p>